

春期講習受講にあたって②

■滋賀県公立入試傾向の変化に対する春休みの取り組み

ご存知の通り、H26年度を機に滋賀県の公立入試の傾向は思考力、表現力、記述力を問う問題が増えるなど大幅に変化（複雑難化）して、従来の対策では非常に得点しにくくなっています。今後もこの傾向は続くことは間違いないでしょう。【定期テストも公立入試の変化を意識してか、英語は教科書の長文からほとんど出題されず、初見の長文問題ばかりの出題。数学、理科は入試レベルの問題も。社会は記述式問題が大幅に増えるなど、定期テストの本来の趣旨（教科書とワークからそのほとんどを出題する。）からだんだんかけ離れてきています。2学期から始まる中3実力テストはその傾向に合わせて得点しにくいと予想できます。】

まずこの新たなスタート地点である年度の節目である春に志望校をなるべく高めに設定して残り日数を逆算してザクッとでよいのでしっかり計画を立ててください。勉強量は目に見えないので「勉強日誌」をつけ、どのテキストをどのページまで取り組んだか、毎日記し、勉強量を目に見える形にして下さい。モチベーションが上がり、学習が習慣となるのは間違いないでしょう。

■学習はまず計画と目標から／学力方程式＝「やる気（集中力）」

×「学習の量」×「学習の質」

勉強時間（量）と学力は間違いなく比例します。勉強すればするだけ学力は上がります。ただし注意してもらいたいのは土台（基本）がある程度しっかりしている。勉強方法が間違っていない。という大前提です。

「今まで、それなりに頑張り努力したのに結果が伴わなかった。」

原因あっての結果。必ず、原因があります。

「原因がわからないまま、身につかない学習をそれで良しと延々と続け、自己満足に浸っていた。」です。

勉強法は各自に合ったスタイルがあります。それで伸びれば問題ないのですが、伸びなければ、春期講習が始まる前に、今一度見直し、1日も早く改善して下さい。原因がいまいち、わからなければ、担当講師に時間をかけて相談してみましよう。（ほっておくと深刻な学習状況と悩みを抱えてしまい、せっかくの学習塾の存在意義がなくなります。当教室を最大限に利用し活用してください。）

根本的原因を追求し、気づき、把握し、改善しないことには、この春休みに頑張っても、同じことを繰り返すだけで成果が全く見えなくなります。

■授業で伸びる生徒の共通の特長は、

- ①遅刻しない【特別な理由は除く】
- ②先生を信じ、先生の言うことをよく聞く
- ③しっかり集中して私語をしない。
- ④宿題は必ず取り組む。

【①～④は基本です。まず、授業時間を短く感じます。】

+

- ⑤授業で間違ったところを2度と間違えないように復習を徹底する。（反復学習）

⑥予習する。

【⑥までいけば伸びない方がおかしいです。①コマ80分授業ではこちらは解き方、考え方を教え「分かる」にします。④～⑥で「できる」にするのです。ここは生徒諸君の努力でここが成果の分かれ目です。「英単熟語」の暗記する、「計算を早く正確に解く」は、授業中の先生にはどうしようもありません。生徒さんの日々の努力によるものです。】

家庭学習・自習においては、同じ1時間でも集中力を高めて英単語を40個覚えるのと、漫然と10個覚えるのでは学習密度と定着度が全く異なり、天地の効果差があります。まず質量を意識してその結果が勉強時間です。勉強時間を意識するのはよいものの質量が伴っていなければ本末転倒で学習成果はいつまで経っても現れません。質量がしっかり充実した勉強時間を重ねていくことです。加えて必ず反復学習は必ず行ってください。性格や学力状況にもよりますが、基本、良質の問題集を1冊多くとも2冊にとどめ、それを何度も何度も繰り返すのです。1周、2周、3周・・・と繰り返す度に着実に実力は付きます。(問題集がボロボロになればなるほど実力はついていきます。)ここで力説したいことは、わからない問題は先生にすぐに質問し、完全に納得するまで家で反復して「わからない」→「わかる」→「できる」にすることです。わからない問題→できる問題にしてその数を増やしていけば実力がつくのは当然です。(オリジナルの間違いノートを作れば効果テキメンです。)

「わかる」＝問題の解き方はわかっているが、いざテストになっても解答用紙にかけないこと。
「できる」＝いきなりテストされてもしっかり解答でき、確実に得点することができることです。

さらにもう一つは問題集には絶対に解答を書き込まず、別のノートに書き込み、採点することです。答えは簡単。繰り返せない(反復できない)からです。【学校提出物のワークは仕方ありませんが、もしそこからテストが出題されるなら、ワークをコピーし、そこには何も書き込まずにノートに解答を書いてひたすら繰り返してください。】

また、間違いは、消さずにいつ(日にちを書くとよい)どこを(フセンを貼るとよい)なぜ(先生にすぐに質問し一切の疑問点も残さないこと)間違えたかを明確にして、次回取り組んでも完全に解けることです。(その時はフセンをはがしてください。フセンの数が少なくなるほど実力はついているということです。)・・・

☆英単熟語は手間がかかりますが「単語帳」を使うのが抜群の効果です。(いつでもどこでも持ち運べ定着度を確認できます。英作文はさらに良しです。文法も英単熟語もまるごと覚えられます。和文→英文、英文→和文どちらも完璧にできてはじめてOKです。もちろん英単熟語だけではなく、歴史の年号(ゴロ合わせはさらに効果抜群)や理科、社会の重要語句、漢字にも応用できます。

☆意外と知られていない裏技があります。「計算問題」の取り組みです。

計算練習の際は万年筆かボールペンで取り組むことです。効果は絶大で、1カ月も取り組めば、深刻な符号のケアレスミスも解消するでしょう。その際は、かならず、計算の過程をしっかりと書き記すこと。どこでなぜ間違えたかをすぐに把握できますし、高校数学は計算過程を重視するので、後で苦労することもなくなります。

学習効果の差が、こういう工夫と地道な作業の積み重ねによるものが非常に大きいのです。

特に春休みは学校休みにより規則正しい生活が崩れる傾向にあるので、質量がしっかり伴った

勉強時間をいかに捻出したくさん増やすかで、そのためにはまず「やる気」、そして「集中力」を最大限発揮することです。「やる気」あつての初めての「集中力」で、車に例えるなら「やる気」は燃料です。なければ車は絶対動きません。

と言っても、入試で覚えなければならない英単語は900語。社会の歴史・地理・公民、理科の基礎重要語句、国語の漢字・語句、数学の計算は基本の基礎の最底辺の土台であるため、

先生いなくとも学力に関係なくある程度の自立学習でマスターできますが、今まで述べたところで継続してこれらを取り組むのは、かなりの根気が求められ、ある意味、非常に困難です。

そこで早稲田LL安土駅前教室では今年度より様々な「楽しい学習イベント」を実施して全生徒の学力向上を目指していきたいと思います。成績が伸びるのが少しでもよい方法があるなら、こちらも苦勞をいとわずに惜しみなく公開実施していきたいと思います。(勉強合宿も検討中です！)

2017の早稲田LL安土駅前教室を多いに楽しみにしてください!(^_^)!

早稲田LL安土駅前教室